

# 百日ぜきにご注意を！

百日咳は、百日咳菌 (*Bordetella pertussis*) の気道感染によって起こる急性呼吸器感染症で、いずれの年齢でも感染しますが、小児を中心に発生が見られます。

日本では、1981年に沈降精製ジフテリア・百日ぜき・破傷風三種ワクチン (DPT) が導入されて以降、患者数は減少していましたが、近年、ワクチン効果が減弱した青年・成人に発症者が増加しています。

成人の方が感染しても、一般的に症状は軽く、脳症などの重症例や死亡例は極めてまれですが、乳幼児への感染源となるため注意が必要です。

ワクチン未接種児が感染した場合は、重篤化しやすく、日本でもいまだに死亡事例が認められており、注意が必要です。

## <症状は？>

通常7～10日間程度の潜伏期を経て、かぜ症状の後、次第に咳の回数と程度が激しくなります。その後、連続性で発作性の咳が2～3週間続きますが、この咳込みは、顔を真っ赤にしてコンコンと激しく、最後にヒューと音を立てて大きく息を吸う百日咳特有の発作で「レブリーゼ」と呼ばれています。

なお、乳児では重症となり、特に新生児がかかると無呼吸、痙攣となり、致命的となることがあります。



## <予防方法は？>

予防接種が効果的です。

三種混合 (ジフテリア・百日咳・破傷風) ワクチンを生後3ヶ月から90ヶ月 (7歳半) までに4回受けます。初回は、20日～56日の間隔で3回受け、続いて12～18ヶ月後に追加接種を1回受けます。

1歳未満で百日咳にかかると重症化しやすいので、生後3ヶ月になったら、なるべく早く受けましょう。

予防接種の対象となっていない成人の方は、人混みや流行地でのマスクの着用などを心がけてください。

なお、予防接種の申し込み、実施期間、場所など詳しいことについては、お住まいの市町村にお問い合わせください。



## <感染してしまったら？>

咳が続く場合は百日咳の感染を疑い、早めに医療機関を受診しましょう。

